

NPO法人very50と連携し人材育成イベントを共催

社会課題に挑む実践者から新たな視点を学ぶ機会を提供

富士工業株式会社（以下、FUJIOH※1）は、NPO法人very50（以下「very50」）とともに人材育成イベント「企ミDiner」を共催※2します。第1回は2026年11月6日（金）に、very50が運営するコミュニティスペース「.TEN（テン）」にて開催され、事業承継や新規事業創出に取り組む実践者をゲストに迎えます。講演後はFUJIOH社員や大学生、異業種の参加者同士が食事を囲みながら対話をおこない、交流を通じて視野を広げ、次世代を担う人材としての成長につなげます。

※1 FUJIOHは、富士工業グループの企業ブランドです。

※2主催：very50／共催：FUJIOH

「企ミDiner」について

【第1回開催概要】

日時：2026年11月6日（金）19:00～21:30(受付開始：18:40～)

会場：「.TEN」

東京都千代田区神田三崎町3-4-2 J・SQUARE水道橋2F

参加費：飲食実費を予定（参考：1000円）

定員：5名 ※先着順

申し込みWebサイト：<https://peatix.com/event/5163036>

申し込み締め切り：2026年11月5日（木）

「企ミDiner」は、第一線で挑戦する実践者の話と、その背景にある社会の知識をセットで学ぶことで、「企ミ」を生み出す力を身につけるイベントです。最後には参加者全員が、「これをやりたい」「試してみたい」という自分の企ミをひとつ言葉にして持ち帰ります。

第1回「企ミDiner」のプログラムについて

①知る：中小企業から考える「日本の未来」

日本企業の99.7%※3を占める中小企業は、日本経済や地域社会を支える重要な存在です。一方で、事業承継や後継者不足などの課題に直面しています。第1回となる「企ミDiner」では、事業承継や後継者不足といった課題を切り口に、日本の産業や経済の将来について考えます。

当日は、中小企業の世界を「自分に関係のある領域」として理解してもらうために、very50代表理事の菅谷亮介氏が、中小企業を取り巻く現状や社会課題について、日本経済・産業全体を俯瞰するマクロな視点からお話します。

※3 中小企業庁「中小企業・小規模事業者の数（2021年6月時点）の集計結果」（2023年12月公表）

登壇者：NPO法人 very50
代表理事 菅谷 亮介氏

②聞く：挑戦する経営者のリアル

埼玉県比企郡小川町で160年以上の歴史を持つ紙メーカー、セキネシール工業株式会社の経営者、関根俊直氏をゲストに迎えた講演をおこないます。同社は、1300年の歴史を持つ小川和紙の手漉き技術をルーツに、長年にわたり産業用ガasket材料の開発・製造を手掛けています。一方、自らの意思で事業承継を選択した関根氏は、160年以上続く伝統や技術を守りながら、培われてきた知識や技術を活かし、電気自動車向けバッテリー断熱材や廃材を活用した一般向けプロダクトなど、新たな事業領域にも挑戦しています。

当日は、受け継いだ技術や経営資源をどのように再解釈し、新規事業へと展開してきたのかをテーマに、挑戦の背景や意思決定のプロセス、試行錯誤の経験などについて伺います。

登壇者：セキネシール工業株式会社
代表取締役社長 関根俊直氏

③企ム：Dinerタイム

講演後のDinerタイムでは、食事を囲みながら参加者同士で対話を深めます。登壇者の話を聞くだけでなく、感じたことやそれぞれの仕事・活動における挑戦について意見を交わすことで、多様な視点や考え方に触れる機会を提供します。業界や立場を超えた交流を通じて、自身の活動や仕事を捉え直し、新たな挑戦や次の行動のきっかけを得られる場となることを目指しています。

食事を囲みながら対話を深める
Dinerタイムの様子（過去開催時）

FUJIOHは2025年9月からvery50とスポンサー契約を締結し、「.TEN」の活動を支援しています。「.TEN」は、肩書きや立場を越えた人々が食事をきっかけに集い、対話を通じて多様な考え方や価値観に触れ、自分の「企ミ」を持ち帰ることを目的とした施設です。

今回の共催は、活動支援の一環であり、FUJIOH社員や大学生、異業種の参加者との交流から、新たな発想や行動のきっかけが生まれる場を提供します。

<報道関係者お問い合わせ先>

富士ホールディングス株式会社 コミュニケーションデザイングループ

TEL: 042-718-5661 E-MAIL: fujioh.cdg@fujioh.com

「.TEN」 と「very50」 について

■「.TEN」 概要

2025年11月にオープンした「.TEN」は、他者や社会に対して優しさを持ちながら社会課題解決に挑む人材（以下、自立した優しい挑戦者）が生まれ育つ空間として、「食ベル・企ム・交差点」をコンセプトにしています。肩書きや立場を越えた人々が食事を囲むことで交わり、互いに学び合い、そこで生まれた気づきやエネルギーを、それぞれの「企ミ」として形にしていきます。

教育NPO「very50」が運営する本施設は、NPO やソーシャルビジネスの立ち上げ、地域課題の解決プロジェクトなど、社会にポジティブなインパクトをもたらすチャレンジに取り組む若者が利用できる拠点として位置づけられています。

所在地：東京都千代田区神田三崎町3丁目4-2 J・SQUARE水道橋 2F

TEL：03-4405-4672

公式Web：<https://dot-ten.jp>



「.TEN」内観

■「very50」 概要

NPO法人very50は2008年に創業し、社会課題の現場と学びをつなぐ教育NPOです。経営課題を現役社会人や大学生と共に解決していく高校生向けプログラム「Mission on the Ground (MoG)」や、新興国のような複雑な環境下でリーダーシップを発揮する人材を育成する大学生向けプログラム「Leadership in Developing countries (LiD)」を展開。不確実で変化の激しい時代においても、自ら考え、選び、行動し、道を切り拓く力を育てています。

ミッションは「自立した優しい挑戦者を増やして、世界をもっとオモシロク」。これは、単に起業家や社会活動家を育てることを目的とするものではありません。自らの意思で行動し、他者や社会に対して優しさを持ちながらも挑戦を続ける—そんな“10%のホンモノ”を志す人たちを社会の中に増やしていくことを目指しています。

very50 が育ててきた挑戦者たちは、国内外の学校現場や企業、地域社会で新しい動きを生み出しています。

教育から社会へ—挑戦の連鎖を広げることが、very50の使命です。



MoGの活動の様子

公式Web：<https://very50.com/>

「FUJIOH」 について

■FUJIOH概要

FUJIOHは、1941年の創業以来、ものづくりにこだわり続け、現在では一般家庭用レンジフード国内シェアNo.1※5のメーカーとして事業を展開しています。近年は、レンジフード開発で培った知識・技術を活かし、業務用製品の開発・生産に加え、産学連携や企業間共創などを通じて、新たな事業や価値創出に取り組んでいます。

食と親和性の高い事業を展開する FUJIOHは、肩書きや立場を越えた人々が食事をきっかけに集い、自立した優しい挑戦者を育てる「.TEN」のコンセプトに共感し、2025年9月にvery50とスポンサー契約を締結しました。

FUJIOHは、very50とともに企画づくりに携わるほか、空気環境改善の知見を「.TEN」の空間創りにも支援しています。快適な空気環境を整えることで、参加者同士が対話しやすい環境づくりに取り組むとともに、キッチンスペースにはFUJIOHの関連ブランドが提供する可動式IH調理ワゴン「ARIACHEF Pro（アリアシェフプロ）」を設置し、参加者が調理をしながら自然に交流できる場を提供しています。

※5 出典：シェア 61.8%・富士経済「住宅建材 / 新築・リフォーム市場トレンドデータ便覧 2026」（2025 年度実績）



上：「.TEN」のキッチンスペース
下：アリアシェフプロ

富士工業株式会社
経営企画本部 経営企画部
(.TEN担当)
林 健一郎

<お話できること>

- ・NPOとの連携のきっかけ
- ・企業とNPOの協働を通じて得られた学び
- ・企業とNPOが協働する意義や今後の展望

※ご質問事項は調整可能です

<報道関係者お問い合わせ先>

富士ホールディングス株式会社 コミュニケーションデザイングループ

TEL: 042-718-5661 E-MAIL: fujioh.cdg@fujioh.com